

県立病院ではたらく仲間をつなぐ 病院組合ニュース

愛知県病院事業庁職員組合
〒453-0016 名古屋市中村区竹橋町36番31号
電話(052)212-8031 FAX(フーアケス)0120-930-340
メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者 近藤陽介

2025. 7. 8
No.188



6月24日、アイリス愛知において、第37回中央委員会を開催しました。
(中央委員定22名のうち、出席19名、委任状提出2名、欠席1名)
中央委員会では、初めに一般経過の報告を行い、次に第1号議案「当面の取り組み」についての提案の中で組合の必要性や医療現場をとりまく厳しい情勢の説明も行い、賛成多数で承認、可決されました。

第37回 中央委員会開催

本日はみなさまご参加いただきありがとうございます。また、組合活動、アンケート回答などにご協力いただきありがとうございます。私たちは、日々組合活動としてみなさまにいただいた要望や要求内容をまとめて病院事業庁と交渉しております。今回の中央委員会では直接みなさまの意見を頂けるとても貴重な機会だと考えておりますので、あまり固くなりすぎず、ご自由に意見をいただけたら大変勉強になります。どうぞよろしくお願いします。



近藤執行委員長

委員長あいさつ

はじめに
障害者向けグループホームでは不正が明らかになった後に労働組合結成され、また芸能人の女性トラブルで窮地に陥ったテレビ局では労働組合加入者が激増した。問題発覚後に労働組合の必要性が認識されたようだ。
○医療をとりまく情勢
病院収益悪化として「診療報酬」「人件費上昇」「医療機器等の値上げ」などが、コロナ禍を経て病院の経営を一段と厳しくし、救急病院の閉院、大規模病院の建設が事業費高騰で撤回、大学附属病院の建て替え計画中止などの事例が出ている。
○職場をめぐる状況
小児センターでは、医療スタッフの業務が相乗的・累乗的に増えている。職場環境の改善を求めていく。

県職連合 第37回中央委員会

6月24日、アイリス愛知にて県職連合第37回中央委員会が開催されました。

病院組合からは、9名の中央委員の出席と2名の委任状提出、0名の欠席があり(定数11名)、県職連合の催しの取り組みについて病院組合の中央委員から「いつも募集期間が短いと感じる。病院職場などの変則勤務職場では、勤務予定が決まるのが遅く、申し込もうと思っても既に募集期間が終わっていることがあるため、もう少し募集締切りなど余裕を持った期間としてほしい」と発言がありました。

ジャーナリングではまず潜在意識にアクセスする訓練をし、徐々に意識できるようにする。純粹意識に到達し、本当の望むことがわかると良い。
意識が変わると行動が変わる。パートナースhip、仕事、恋愛など望むように動けるようになる。潜在意識は体を動かすと気づきやすくなる。そのため、ジャーナリングと同時にヨガなどをおこなうことが効果的である。
○椅子ヨガ実践
肩甲骨ストレッチ…両手を合掌し上下に動かす。
体幹ストレッチ…片手を臀部にあて体をひねる。
背骨ストレッチ(自律神経を安定させるのに効果的)…体をそらせたり丸まったりする。心が開くと体も変わっていく。逆もしかりである。



ある。

○感想

ストレッチを通して呼吸が深くなり、リラックス出来ました。普段自分に集中する時間はあまりとれず目先の問題に衆力してしまします。時にはこのような時間を設け、自身の声を聞き状態を知ること、自分の欲求や感情を見つめ、冷静に問題解決に向かっていけると思いました。

(参加者 Gさん
精神・女性)

2025.7.8

「書くことで夢を実現する!」では、脚本家の吉田里恵香氏と作家の麻布競馬場氏による対談で、夢や目標を手帳などに書くこと、「馬に乗る」「家族にやさしくする」などの内容を50個書いてみる。

書くことで自分を客観視できる、SNSも上手に使用してみるとよいなど話がありました。たくさんの夢を書くことで1個の夢に固執しない、すがりつくこともなくなり1つだめでもオッケーと気楽にできるというのはいまの朝ドラの脚本を書くことを目標とし手帳に毎年記し、実際にドラマ「虎に翼」の脚本に携わることができたそうです。私も手帳を年始めに書き始めて途中で使っていないことが多いですが、仕事やプライベートの目標、今年中にやりたいことなど手帳に書き出しで見返すことで実現に一歩進むような前向きになれる話を聞くことができました。また、麻布氏が仕事以外に生活、子育てや物書きなどすべての人は仕事と兼業して



いること、自分をみつめることで自分の大変さや他人の大変さも理解でき、自分の生活も愛することができると言っていたことがとても印象に残りました。

「自分らしいキャリアを描き続けるために必要なこと」では、鎮痛剤「EVE」でおなじみのエスエス製薬の元島陽子氏と元アナウンサーの笹川有里氏の対談でした。お二方とも転職や起業等でスキルアップをはかり職場風土を変えたり、経営者となったり素晴らしい経歴の持ち主の話は説得力があると感じました。エスエス製薬は男女雇用機会均等法誕生の40年前に「EVE」を発売し進化を続けながら現在は「Belie EVEあなたの可能

性は、この世界の可能性だ」を掲げ働く女性の悩みを支えてきたそうです。40年前と比べて女性の社会進出は多少改善されましたが海外に比べるとまだ日本は遅れており、アンケートの結果でも女性のキャリア継続に希望を持っていない人の割合が多いとのことでした。その原因として時間や体力などの物理的な制限、活用できない制度、ロールモデルの不在があるそうです。

エスエス製薬では理念を掲げるだけでなく自社から実践するかたちで様々な制度導入をしたそうです。自分らしいキャリアを描き続けるために重要なことはしなやかさを持つ、俯瞰してみる、5、10年後を考えてみることで迷ったときは立ち止まってみることで大事と熱く語られていました。

もし今の場所に迷いがあるのであれば選択肢は3つで、我慢するか、出て行くか、自分が原動力となり環境を変えることというのが印象的でした。自分が原動力になるというのは労力があることだとも思いますがお二方ともリーダー的存在で活躍され説得力があり輝いている印象を受けました。

椅子ヨガワークショップでは、椅子に座ってできるヨガを体験しながらリラックスすることができました。リラックスできることは自分を整えることにつながり、日々の仕事で疲れたときに実践していこうと思いました。

(参加者 Hさん
精神・女性)



特に、講義者の具体的なエピソードは、自身の仕事や人生への向き合い方を直すきっかけとなりました。

印象に残ったエピソードの一つは、他部署からの質問に答えられず、「自分はリーダーに向いていないのではないかと悩んだという話です。数日間にわたって自信を失っていたという率直な告白には、人前では見せないリーダーの裏側を垣間見たような気がしました。しかし、最終的にプロジェクトを完成させたことで大きな達成感を得られ、「また次も挑戦したい」と思えたという話は、どんな小さな成功体験でも人を前向きに変える力があることを教えてくれました。

また、部下の気持ちを汲み取ることができず、マネジメントがう

まくいかなかったという経験も、リーダーとしての葛藤を感じさせるものでした。上司から「君は人の気持ちが変わっていない」という厳しくも核心をついたアドバイスを受け、接し方を変えたことで信頼関係が改善されたという話は、コミュニケーションの重要性を改めて認識させられました。リーダーとは、指示を出すだけでなく、相手を理解しようとする姿勢が不可欠ののだと実感しました。

さらに、「ミスをしたくないこと」に重点を置いて結果、部下が楽しさや充実感を感じられない状態に陥っていたという話も心に残っています。完璧を目指すあまり、チームの活気が失われていたという状況は、成果主義に偏りがちな現代の職場においては特にありがち

な問題です。そんなときに上司から「リーダーもミスをする」と言ってもらえたことで、肩の力が抜け、結果としてプロジェクトもうまくいったという話には、人間らしい弱さを受け入れることの大切さを感じました。

そして、講義者が出産を機にキャリア中断への不安を抱えたというエピソードも、特に印象深いものでした。出産や育児が仕事のブランクになると考える人は多いですが、講義者は育児を通じて培ったスキルが仕事にも役立ったと話していました。段取り力や相手思いやる力など、家庭での経験が職場で活かされるという視点はと



ても新鮮で、多様な経験をキャリアに生かす柔軟な発想に感銘を受けました。

今回の講義を通じて「自分軸」は最初から確立されているものではなく、数々の試練や学びを通じて徐々に形づくられていくものだということを学びました。特に、正解のない状況でも、自分の価値観に基づいて選択し、行動することの大切さを感じました。講義者たちは、苦しい状況でも逃げずに自分と向き合い、周囲と誠実に関わりながらキャリアを積み重ねてきたという共通点を持っていました。

私自身も、これから先さまざまな困難に直面することがあると思いますが、今回学んだように、経験の一つひとつを自分の糧として捉え、少しずつでも自

分なりの軸をつくっていけるよう努めていきたいと思えます。そして、自分らしさを大切にしながら、他者にも良い影響を与えられるような存在になれるように、これからのキャリアに向き合っていきたいと強く感じました。

(参加者 Fさん 精神・男性)

心身ともに健康で、自分らしく生きることができると、心から思う。自分らしく生きることができると、心から思う。

○ジャーナリングの概要

ジャーナリングとは書くことで自分を整えるセルフケアのことで、基本となる考えは、まずは自分に向き合い、自分の感情や欲求に気づくことが大切である。それにより自分を満たすことができ、自分の愛情の枠が満たンになれば、あふれた分他者を満たすことができる。

○ジャーナリングの目的

思考をクリアにすることである。人の意識には階層があり、普段は表層2・3%の顕在意識（コントロールできる意識）潜在意識（コントロールできないが強く影響を受ける意識）純粹意識（本来やりたいこと、欲しいもの、成し遂げたいこと）にわかれて

いる。

WOMAN EXPO 2025 part2

2025年6月7日、渋谷ヒカリエにて、「WOMAN EXPO 2025」が開催されました。そのレポートpart2をお届けします。

「変わる受験、変わらない想い、親が知るべき進路と教育のリアル」

6月7日に東京で開催されたWOMAN EXPO 2025に初めて参加しました。行く前から、テレビに出演している張名人の話が聞ける！こんな贅沢をしてよいのかとワクワクしながら、皆興味深いセミナーばかりでした。

4つのセミナーを受講しましたが、今の自

身の一番の課題である「変わる受験、変わらない想い」親が知るべき進路と教育のリアル」に付いて述べさせていただきます。

私の娘が今年高校受験、息子は高2であるが、この先の人生をどう考えているのか、目の先の楽しみばかりで全く勉強をしない現状。子どもたちにどう接していけばよいのかの何か手掛かりがあればと思いました。

1992年が受験のピークで2人に1人が大学に行け、浪人生も沢山いた時代。しかし現在は、少子化に伴い大学全入時代で難しくなく、自身が行きたい大学を目指せる恵まれた時代に変化していることが分かった。確かに学校や塾の先生もよい大学を選ばなければ、誰でも行けると話されている。誰でも行ける

と言われるが、逆に試験の内容には、変化が出て求められる学力が必要になってきている。ミスのない・注意深く・責任感・真面目・信頼感が求められていたが、現在は問題発見力・的確な判断・革新性・的確な決定と求めることも高度になってきている。そのようなことはすぐには身につかないため、知識・技術をインプットしたうえで、思考力・判断力・表現力を幼少のころから訓練していく必要がある。つまりベースは、日常会話にあり。YES、NOと決めつけず、小さい頃から子どもと対話をしながら本人の希望を叶える。自分たちの解決できる能力をサポートしていく役割を先回りせずに考えるチャンスを与えていくことを親としてできることが必要と言うこと

小島慶子さんは、夫の仕事関係もあり子どもたちをオーストラリアで育て教育させてきた経験を話してくれた。日本は偏差値がいくつで、〇〇大学に出て、こんな企業に勤めている人が偉い人と言われている。しかしオーストラリアは、専門性と学士を重視しているため、浪人して〇〇大学に行くまでのことはない。また、小児科の医師が個の特性を考えて助言をして学習の仕方のアドバイスをする医

療をしている。日本と根本的に教育の在り方が違っていることが分かった。

私の子どもたちは、ある程度大きくなってしまうため、遅いかもしれないが、まだ小さいお子さんがいる人は是非、読書・読み聞かせを怠らずにしてください。一番の勉強の場で国語力が身につく、自分の意見が言語化できることに繋がっている。つまり、思考力・判断力・表現力が読書により身につけてくる。また、チャレンジをしない生徒が増えている現状がある。人生1回は無理をする。人生の経験として受験。親として大切なのは最後まで頑張り続ける子どもを最後までサポートしていくことだと思う。親としてもよかったと思える瞬間ではないかと思う。11月も、

今回の講義を通して、リーダーとして最前線で活躍されている方々がどのようにして「ブレない自分軸」を築いてきたのか、そのリアルな体験を聞くことができ、大変学びの多い時間となりました。成功談だけでなく、迷いや挫折を経て自分なりの価値観を見出してきた姿には、多くの気づきがありました。



参加できるようであれば参加したいと思ったWOMAN EXPOでした。

(参加者 Eさん 精神・女性)



「リーダーに学ぶ！身に着くべきリーダーの姿勢」

いる。